

「平成20年度東京都がん検診実態調査」結果

—都民のがん検診受診状況を初めて詳細に調査しました—

東京都は、都民のがん検診の受診状況や検診に対する意識などについて、実態調査を行いましたので、結果をお知らせします。なお、この調査は5つのがん検診について、受診率、検診内容、健診機会等を詳細に把握する全国で初めてのものです。

調査概要

- (1) 調査対象：東京都（島しょを除く）に居住する満40歳以上の男性2,000人及び満20歳以上の女性3,000人の計5,000人
- (2) 回収率：47.6%（回答者数 2,381人）

調査結果

- (1) がん検診受診率¹
 - ・胃がん検診 35.6% ・肺がん検診 39.6% ・大腸がん検診 35.7%
 - ・子宮がん検診 34.8% ・乳がん検診 30.9%
- (2) 国指針に基づく検査方法でのがん検診受診率²
 - ・胃がん検診（胃X線検査） 26.8%
 - ・肺がん検診（胸部X線検査のみ） 38.0%
 - ・大腸がん検診（便潜血検査） 32.5%
 - ・子宮がん検診（細胞診：医師による採取） 32.7%
 - ・乳がん検診（マンモグラフィと視触診の両方） 17.7%
- (3) 検診の受診機会
 - ・胃がん、肺がん、大腸がん検診は「職場の検診」の割合が高く、子宮がん、乳がん検診では、「住民検診」が最も多く、次いで「職場の検診」であった。
- (4) 検診を受診しない理由
 - ・胃がん、大腸がん、乳がん検診は「心配なときはいつでも医療機関を受診できる」の割合が高かった。
 - ・子宮がん検診は「忙しい」の割合が高かった。
 - ・肺がん検診は「忙しい」と「心配なときはいつでも医療機関を受診できる」がほぼ同じ割合であった。
- (5) 検診を受診したくなる条件
 - ・全てのがん検診において、「無料で受けられる」の割合が高く、次いで「各がん検診が一度に受けられる」、「短い時間で受けられる」であった。

1 東京都は、5つのがん検診受診率50%を目標としています。

2 国指針「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針について」